土橋 順さん との思い出

この23日、近所のお客様、土橋 順（すなお）さん（享年77歳）がお亡くなりになられた。

突然の訃報に、何の言葉も出なかった。久しぶりに札幌に帰り、千歳で義兄の一周忌を済ませて午後からお見舞いにと行った矢先、朝11時ころ身罷れた。

私たちも仁木町に移住してしまい、土橋さんも居なくなり、改めて一時代が終わったの感を強くして、この稿を書いている。思えば、まほろばがまだ店構えもしていない発寒橋のたもとのアパート２階の一室で、物売りの物真似を始めたのが1983年の秋頃だから、33年もの昔。その頃から、噂を聞きつけられたのか、土橋さんが家内の講座を聞きに来られて、色々話し込む内に、妙に気が合うというか、うまが合い、おつき合いが始まった。

「いい豆腐があるわよ」と厚田の豆腐を教えて下さり「あの二股ストアの二階の居酒屋『凡日亭』さんが仕入れているのよ」と、親切にも当主の今野清美さんまで紹介してくださった。それからが今野さんとのお付き合いで、吹雪の石狩街道をバイクで厚田豆腐を取りに行く労に負んぶに抱っこで分けて頂き、私も自転車で豆腐や野菜やみそ配りを始めたのだ。

そのきっかけを作って下さったのが土橋さんだった。だから、まほろばの始まりに土橋さんが居てくださった。無論、西野界隈の配達をしながら、（今も、そのころからのお客様が沢山来て下さっている）土橋さんの処に寄り、話し込んだ。当時、彼女がヤマギシ会に入り、卵などの共同購入の中継所をやっておられて、食に関する情報を伝えて下さっていた。また、ヤマギシ会のパンを焼いている亀山さんも紹介して、まほろばのパンも焼いてくださることになった。これは随分と続いた。アパートから西野６条に移って、初めて開業したのも、西野のお客様がいらしたお陰である。あの狭い汚い小さな店で、なんとかやりくりできて生き伸びられたのも、当地のお客様との家族のような結び付きが、今日までやって来られた要因であった。

土橋さんは、食ばかりではなく、ヨガの修行歴も長く、霊性の世界にも深く探求されていて、そこにも共感していた。ことにインドのOSHOに傾倒されていて、彼がバグアン・ラジニーシーと名乗っていた初期のころからインドの聖地プーナに度々行っては何か月も修行されて来た。そんな時、覚醒されて帰国され、人格というか人生観が変わったかのように飛躍された一時期を今もなお鮮明に覚えている。最期まで、OSHOへの帰依の志は変わらず、サニアシンとしての誇りを捨てていなかった。その信条はお互い尊重して認め合った。自分は何生もヨギ（ヨガ行者）をやって来た、と度々語っていたが、生への永遠性をしばしも疑わなかった。「八百屋は、覚者がする仕事だよ」と、何だかよく解らないことを言っては、励ましてくれていた。「自分ん家（ち）の冷蔵庫は、ここ（まほろば）よ！」と豪快に笑っては、何事にも捕らわれず、飄々としてまっすぐ物事を見据える眼差しをもっておられ、随分長いお付き合いだなー、これからもずーっとお付き合いしてゆくのだろう、と思わせる不思議な人であった。家内ともよく話しが合い、認め合っていて、何時かゆっくりとお話しできたらいいね、と思っていた矢先であった。最後にお会いしたのは、一月前だろうか、店でバッタリ、「仁木に移住したんです」と言うと何げなく寂しそうな表情でお別れした。その時、何故か、これが最後のような気がした。

不思議と悲しいとかの感慨は起こらず、また明日お会いするに違いないという確信のようなものがある。きっと前世からの法友と言おうか、道友であったのだろう。いろいろあったが、この30年を土橋さんたちと過ごせたことを、良き思い出として残して下さったことを感謝したい。ご冥福を祈りたいというより、すでに今、あの世でも、カカと笑いながら生を楽しんでおられることでしょう。間もなく、私たちもその仲間に加えて頂こうと、今から楽しみにしている。

そして最後、お葬式に伺った際、土橋さんの多くのお弟子さんが弔いに来られ、思い出話をされた。「あのヨガの集まりの後のソフテリアの食事が何よりも楽しみで、みんなの憩いの場だった。今は無く寂しい。」その言葉に、何とかして、皆さんが癒しの場としていたソフテリアの復活を思った。今は亡き土橋さんも、きっとそこに同席して、ワイワイと話の花を咲かせるために、降りられることでしょう。そんな思いで、いつかソフテリアで料理が出せるよう頑張って行きたいと思います。

土橋さん、今生おつかれさま。ありがとう!!

まほろば主人

○まほろばや　神のご加護か仏の道か
　　つかず離れず30年

○まほろばや　道都西野に早や三十世
　　やまとの国はここぞと詩う
　　きらめく心水　手中にのせて

○風雲を　くぐりて強し愛（禅）の道
　　無垢に商（あきな）い30年
　　からすも遊ぶ　つくばいの水

○七色の　チャクラを研（みが）く宝気水（ほうきすい）
　　言葉（ことのは）無しとも　人導いており

○桜咲き　鯛の目ウィンク感謝ディ

○この指止まれ　まほろば店（てん）
　　食う夢ござる　ここかしこ

○姑（しゅうとめ）を　怒らせており嫁の素
　　優しく喉（のど）を撫（な）で通る　昔は我も嫁ごりょう

○無垢（むく）の目で　味噌をほめおり
　　商（アキナイ）の鬼

以上、開店以来30年お付き合いしている　しつこい客

土橋　順

平成26年6月20日
（※まほろば30周年によせて）